

経済マンスリー

[アジア]

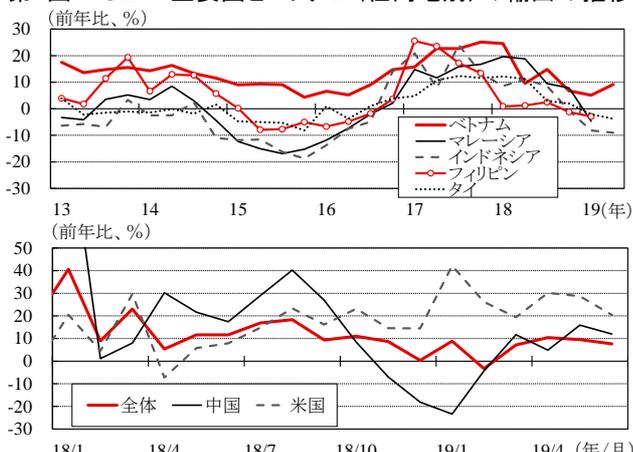
米中対立による追い風を今後の成長に繋げたいベトナム

ベトナム経済は安定した拡大を続けている。1-6月期の実質 GDP 成長率は、前年比 +6.8%と 1-3月期（同+6.8%）と同水準となり堅調を維持した。産業別では、農林水産業の伸びが鈍化したものの、サービス業の伸びが加速し製造業も底堅い伸びを確保した。足元多くの国が前年比マイナスを記録している輸出についても、ベトナムは直近2四半期共にプラスを維持している（第1図）。

輸出が堅調を維持している背景には、衣類・履物が全輸出品の約25%を占め、足元の自動車、半導体セクターの軟調による影響を受けにくい貿易構造に加え、前年比+20~30%と大幅な伸びで推移している米国向け輸出の好調も指摘できる。後者については、米国の対中追加関税回避のため、米国への輸出業者が輸出元を中国からベトナム等の周辺国に変更する輸出代替効果が追い風になっていると考えられる。米国側統計を用いてベトナムからの輸入を品目別にみると、1月より電子機器の伸びが特に大幅な加速を示しており、年初から5月までの累計では金額ベースで全体の30%以上を占めている（第2図）。

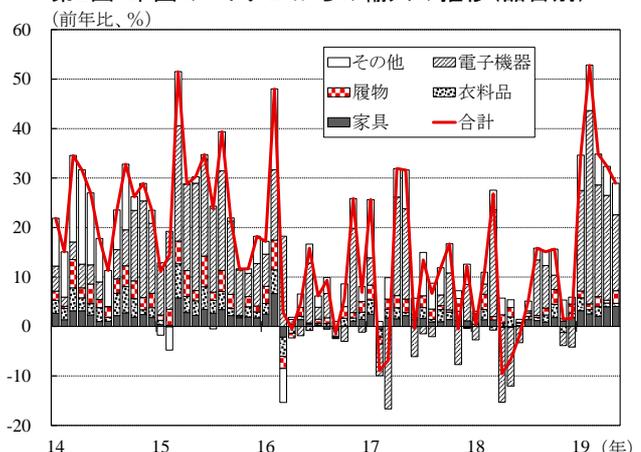
このように、ベトナム経済の堅調は外需の底堅い推移にも支えられており、実際米中対立の激化に伴い生産拠点を中国からベトナムに移転するという事例も確認されていること、更には環太平洋パートナーシップ協定（CPTTP）適用も始まっていること等から、グローバル企業のサプライチェーンの変更等がベトナムに有利になる形で経済成長の追い風になるシナリオが期待されている。但し、5月に米国が主要貿易国のマクロ経済と為替政策に関する報告書において主要貿易国の定義の見直し等を行った結果、ベトナム等は新たに為替観察対象国に指定されており、今後、単純に米中対立に伴う恩恵を享受できるかといえるかは予断を許さない。ベトナムは、繊維等の労働集約型産業が中長期的により労働力が安価な国との競合に晒される可能性が高く、足元の好機を活かし産業構造の高度化を図って経済成長に繋げられるか、正念場を迎えているともいえるだろう。

第1図：ASEAN主要国とベトナム（仕向地別）の輸出の推移



（資料）各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：米国のベトナムからの輸入の推移（品目別）



（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 高瀬 将平 shiyouhei_takase@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。